

(3) 通学路危険箇所調査

①ねらいと得られる効果

実際に自分が利用している通学路の水害時に危険な箇所を調査し、身近な場所に危険な箇所が多く存在することを把握することをねらいとしています。通学路危険箇所調査の実施は、日常生活において、自発的に水害を意識する効果があります。

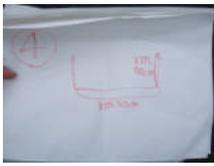
②実施時の留意点

小学生が自発的に避難時の危険箇所を探すことができるよう工夫する必要があります。また、測量用のポール等の道具の使用方法を小学生に示す必要があります。柵のない水路等は、危険なので引率者が必要です。

③準備品

準備物及びチェックリストについて以下に示します。

表 13 通学路危険箇所調査の準備品一覧表

準備物	写真
1. 画板	
2. 測量用ポール	
3. 水性マジック	
4. 簡易ホワイトボード もしくはA3紙 (通し番号等を記入するもの)	
5. 地図	
6. 記録用 デジタルカメラ	

地域の危険箇所調査_準備物リスト

事前チェック	最終チェック	項目	備考
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	画板	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	測量用ポール	グループ数×2
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	水性マジック	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	簡易ホワイトボード	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地図	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	記録用デジタルカメラ	

※数量は全てグループ分必要

④調査の流れ

通学路危険箇所調査のフロー図を以下に示します。

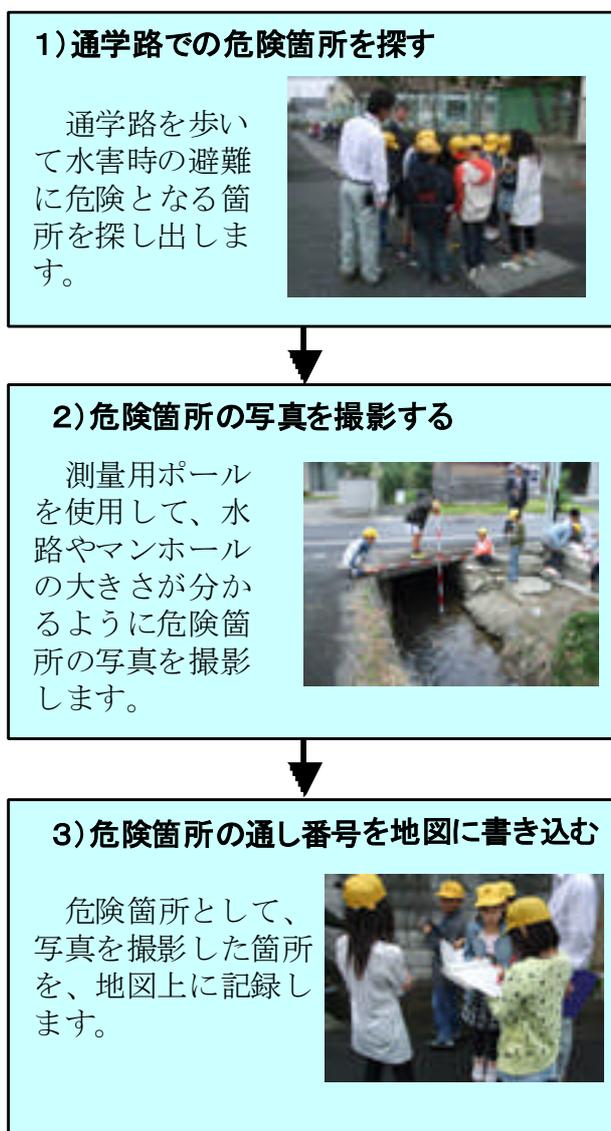


図 27 通学路危険箇所調査フロー図

1) 通学路での危険箇所を探す。

通学路において、水害時に危険となる箇所を探します。

- ・ 柵のない水路、段差



- ・ マンホール

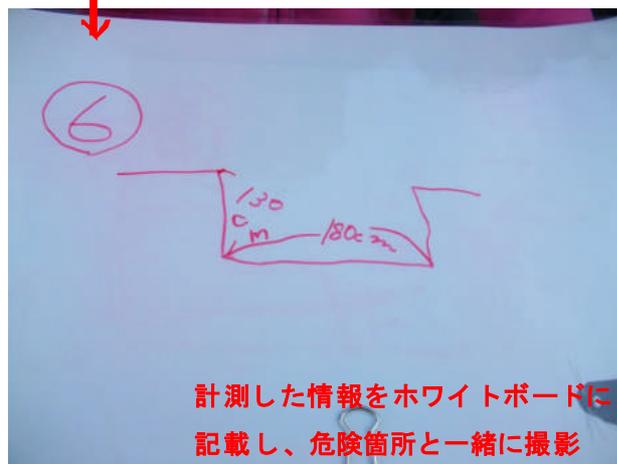


- ・ 大雨のとき水がたまりやすい場所 (バイパス等)

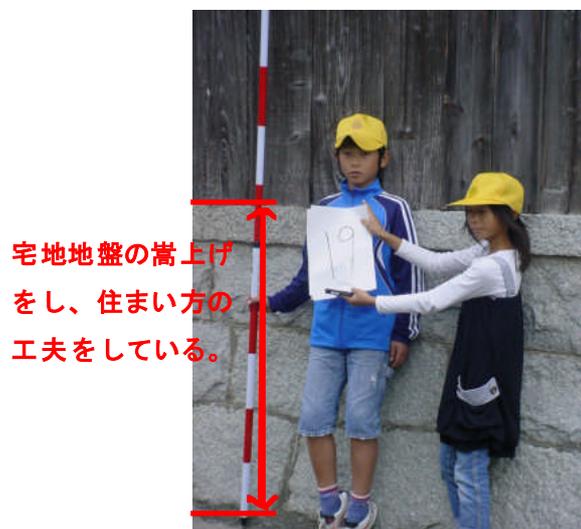


2) 危険箇所の写真の撮影をする。

測量用ポールを使用して、水路やマンホール等の危険箇所の大きさが分かるように撮影します。測量用ポールは水路等の深さを計測するときは垂直に、幅を計測するときは水平に設置して計測します。測量用ポールは、20cm ピッチで赤白で塗装されています。また、ホワイトボードには、通し番号と水路の横断図、測量用ポールを用いて計測した水路やマンホールの大きさ（水路：深さおよび水路幅、マンホール：直径）を記入し、一緒に撮影します。



また、危険箇所以外にも住まい方の工夫（下記の写真）や安全な場所、楽しい場所等も調査します。



3) 危険箇所の通し番号を白地図に記入する。

危険箇所として、写真撮影を行った箇所を白地図に書き込みます。



(4) R-DIG・子どもハザードマップの作成

①ねらいと得られる効果

子どもハザードマップづくりでは、通学路危険箇所調査の結果を整理し、発表することで、身近な場所にある危険な箇所をみんなと共有し、家族にもその情報を伝えることをねらいとしています。R-DIG・子どもハザードマップの作成は、小学生が日常生活と水害の関係性を把握し、それを家族に説明することで地域防災力を向上させる効果があります。

②実施時の留意点

マップに通学路の危険箇所を記す際に、なぜその場所が危険であるのかという理由を考えることで、通学路以外の場所でも危険箇所を把握できるような応用力を身に付ける必要があります。また、発表を行うことで、みんなと情報を共有することが必要です。

③ 準備品

準備物及びチェックリストについて以下に示します。

表 14 子どもハザードマップ準備物一覧表

準備物	写真
1. 白地図	
2. マーカー (8色)	
3. タックタイトル	
4. 大型付箋 (76mm×127mm 程度)	
5. セロハンテープ	
6. ティッシュペーパー	
7. 現地調査時の写真	
8. 進行用資料一式	

子どもハザードマップ作成_準備物リスト

事前チェック	最終チェック	項目	備考
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	白図	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	マーカー (8色)	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	タックタイトル	赤、緑
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	大型付箋	76mm×127mm程度
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	セロハンテープ	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ティッシュペーパー	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	現地調査時写真	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	進行用資料	一式

※数量は全てグループ分必要

④作成の流れ

子どもハザードマップ作成の流れについて、フロー図を以下に示します。

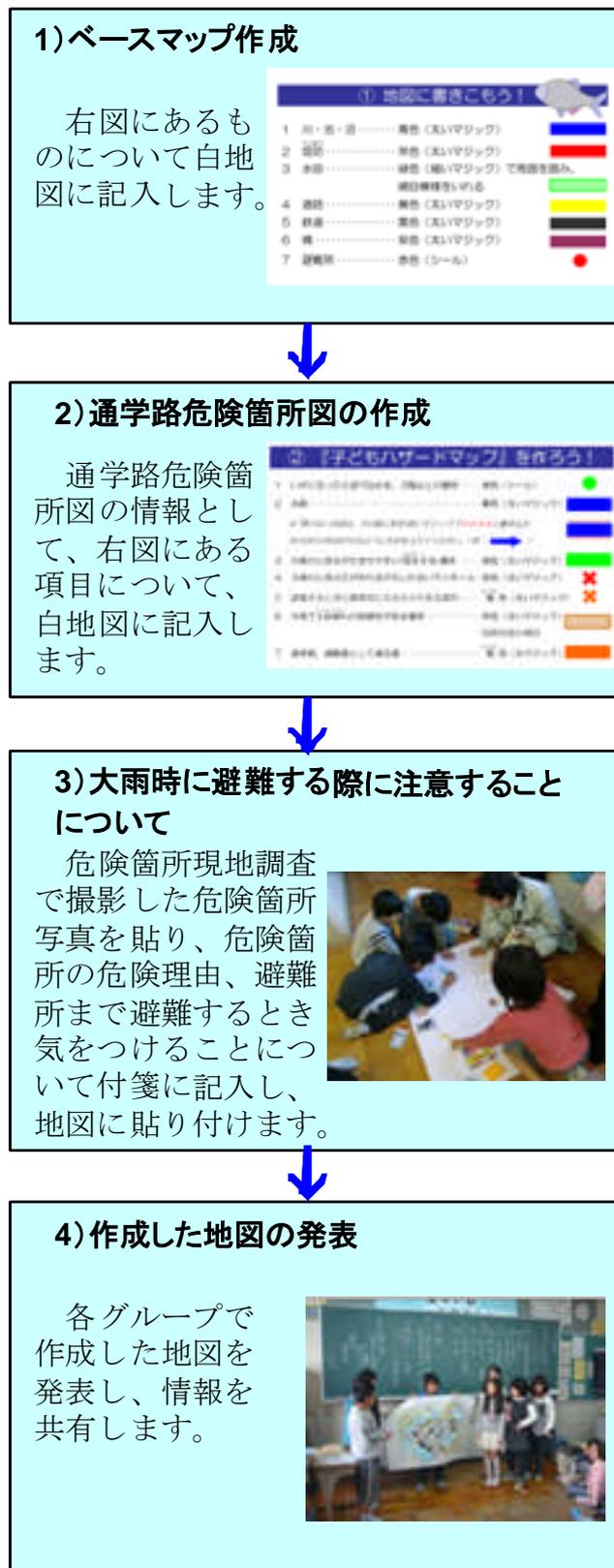


図 28 子どもハザードマップ作成フロー図

1) ベースマップ作成

下記について、白地図に記入していきます。

- ・ 川、池、沼
- ・ 堤防
- ・ 水田
- ・ 道路
- ・ 鉄道
- ・ 橋
- ・ 避難所

色の記入例を以下に示します。

① 地図に書きこもう！	
1 川・池・沼……………青色（太いまじっく）	
2 堤防……………茶色（太いまじっく）	
3 水田……………水色（細いまじっく）で周囲を囲み、 網目模様をいれる	
4 道路……………黄色（太いまじっく）	
5 鉄道……………黒色（太いまじっく）	
6 橋……………紫色（太いまじっく）	
7 避難所……………赤色（シール）	

② 『子どもハザードマップ』を作ろう！	
1 いざとなったら逃げ込める、3階以上の建物……………緑色（シール）	
2 水路……………青色（太いまじっく）	
※ 橋のない水路は、その前に赤色（太いまじっく）で××××と書き込み 水の溢れの恐れがあるように矢印を入れてください。（例： ）	
3 大雨のとき水がたまりやすい（冠水する）箇所……………水色（太いまじっく）	
4 大雨のとき蓋が外れるかもしれないマンホール……………赤色（太いまじっく）	
5 避難するときに障害物になるものがある場所……………桃色（太いまじっく）	
6 大雨で土砂崩れの危険性がある場所……………茶色（太いまじっく） 周囲を囲み網目	
7 通学路、通勤路として通る道……………桃色（太いまじっく）	

2) 子どもハザードマップ作成

ハザードマップの情報として下記について、白地図に記入していきます。

- ・ いざとなったら逃げ込める、3階以上の建物
- ・ 水路
- ・ 大雨のとき水が溜まりやすい場所
- ・ 大雨のとき蓋が外れる恐れのあるマンホール
- ・ 避難するときに障害物になるものがある場所
- ・ 大雨で土砂崩れの危険性がある場所
- ・ 通学路、通勤路として通る道

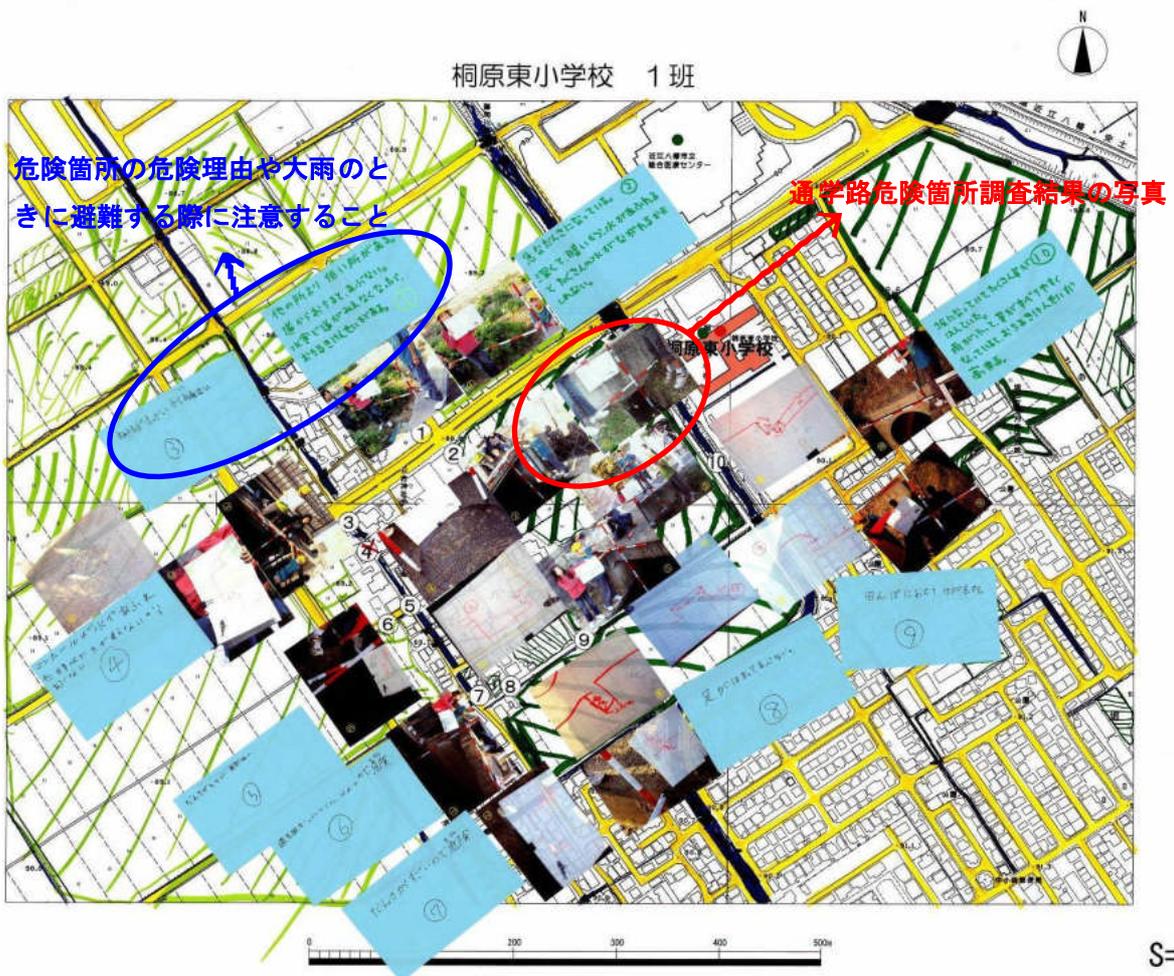


3) 大雨時に避難する際に注意することについて

危険箇所現地調査で撮影した危険箇所の写真を貼り、大雨時に、避難所まで避難する際に、注意することについて付箋に記入し、地図に貼り付けます。



①から③の作業を行った後に作成した地図を以下に示します。



S=1/1, 250

4) 作成した地図の発表

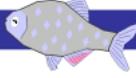
各グループで作成した地図を発表し、情報を共有します。



⑤ 進行用資料一式

子どもハザードマップ作成に向けた R-DIG（水害図上訓練）を実施する際の、進行用資料を以下に記載します。

① 地図に書きこもう！



1 川・池・沼	青色（太いまじっく）	
2 堤防	茶色（太いまじっく）	
3 水田	水色（細いまじっく）で周囲を囲み、網目模様をいれる	
4 道路	黄色（太いまじっく）	
5 鉄道	黒色（太いまじっく）	
6 橋	紫色（太いまじっく）	
7 避難所	赤色（シール）	

② 『子どもハザードマップ』を作ろう！

1 いざとなったら逃げ込める、3階以上の建物	緑色（シール）	
2 水路	青色（太いまじっく）	
※ 筋のない水路は、その筋に赤色（細いまじっく）で×××××と書き込み、水の流れの向きが分かるように矢印を入れてください。（例：  ）		
3 大雨のとき水がたまりやすい（冠水する）場所	水色（太いまじっく）	
4 大雨のときふたが外れるかもしれないマンホール	赤色（太いまじっく）	
5 避難するときに障害物になるものがある場所	桃色（太いまじっく）	
6 大雨で土砂崩れの危険性がある場所	茶色（太いまじっく）	
周囲を囲み網目		
7 通学路、通勤路として通る道	桃色（太いまじっく）	

想定被害

近畿地方に停滞した秋雨前線が台風の影響により活発になり、滋賀県東部を中心に大雨が続いています。

1時間あたりの最大雨量は80mm。今後24時間で降雨量は300mmを超える可能性があります。
（※ 目安：車のワイパーが効かなくなるのは時間雨量30mm程度。）

現在、市内各所で道路の冠水や床下、床下浸水が発生しています。

今後も、被害が拡大することが予想されます。

課題①

危険箇所の写真を図面に貼り付けていきましょう。

課題②

大雨になって馬淵小学校まで避難するときに、気をつけておくことはなんでしょう？付箋に書いて地図に貼っていきましょう。

課題③

各グループ作った地図を発表しよう。

みんなの状況

- 家族全員、自宅にいる。
- 自宅は、まだ浸水被害はないが、浸水する可能性が高い。

※ 設定時刻 ある日曜日の14時00分

【資料】覚えておきたい重要なこと

①避難行動の重要性

- 台風や集中豪雨に関する警報が発表された場合、むやみに外出せず河川やがけなど危険な場所に近づかないことも重要です。
- 避難勧告や避難指示が発表されなくても、危険な場所にいたり避難所まで時間がかかったりするときには早めの自主避難が大切です。浸水後の避難は危険が伴います。

②避難するときの心得

- いつもより強い雨や雨が長く降り続くような大雨の時は、テレビやラジオから気象情報や災害情報に注意が必要です。
- いつもと様子が違うと感じたら早めの避難が大切です。
- 特に、がけや川の近くに住んでいる人は危険ですので早めに行動して下さい。
- 避難するときは、溝や側溝に落ちないように杖や棒などを使うことなど注意が必要です。
- 万が一、家の周りが浸水して避難所までいけない場合、無理に移動せずに、自宅付近であれば丈夫な建物の3階以上に避難して下さい。

⑥子どもハザードマップの整理

R-DIG（水害図上訓練）で白地図へ記載した内容、現地調査写真を整理して、下記に示すような子どもハザードマップをA3サイズで作成します。作成した子どもハザードマップは小学生に配布し、家族に説明することで、R-DIG（水害図上訓練）の復習や家族との防災情報を共有でき、水害に備える意識の高揚へ繋がります。

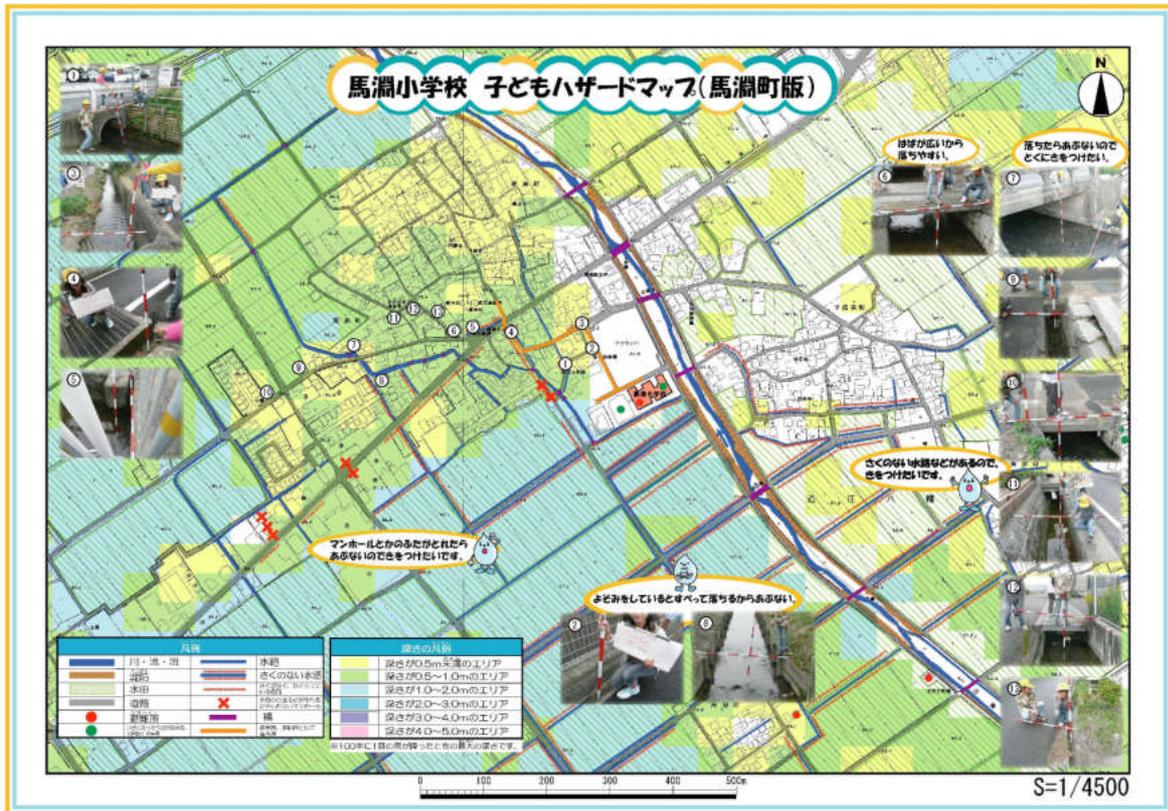


図 29 子どもハザードマップ(例)